

世界が進むチカラになる

MUFG ⑥

挑
戦
する企業

三菱UFJ銀行は人工知能(AI)を用いてスタートアップに融資する総額200億円規模の「マーズ・ジャパン・ファンド」を2023年度中に日本で立ち上げる。運営するのは、イスラエルのフィンテック(金融とITの融合)企業、リクイディティ・キャピタルとの合弁会社、マーズ・グロース・キャピタル

AIでスタートアップ融資

(MGC)だ。

企業データ分析

MGCはリクイディティ

キャピタルのAI技術を用いて企業データを分析し、融資に向けた評

の広島電太郎は「スタートアップの資金調達を多様化するピースの一つになる」と意気込む。

融資に関する銀行の審査は従来、過去の決算書

などに基づく分析が主流

を用いて将来の姿を予測する技術を持つ。48時間以内で融資の可否を判断可能にした。

人とAIで審査

これに三菱UFJ銀行が

資金調達DXで多様化

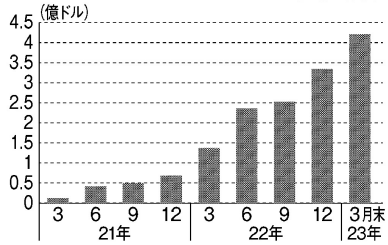
価を行う。シンガポールを拠点に21年に事業を始め、約2年で面談実施件数は2000件超、ファンド総額は7億5000万ドル(約1050億円)に増えた。MGC共同最高経営責任者(CEO)アルタイムで確認。AI

だった。これに対し、リクイディティ・キャピタルはSaas(ソフトウェアのサービス提供)型ユーザ数や従業員数などの業績関連データをリ

持つ審査ノウハウを組み合わせた「人とAIによるハイブリッド審査を行う」と(広島)。経営状況に変化が生じる兆候を見つけ、経営者に指摘するコンサルティングの要

因という。スタートアップは新株発行を通じてベンチャーキャピタル(VC)から資金を調達するエクイティ(株式)ファイナンス(敬称略)

MGCのネットキャッシュ投資額



が常識とされてきた。創業からの歴史が浅く、担保が不十分で銀行から事業資金を借り入れることが難しくなったからだ。だが、AIで高度な融資判断ができるMGCを活用し、銀行から資金を借り入れるデッドファイナンス

(借り入れ金融)を用いれば株式を希薄化せずにスタートアップ融資にもデジタル変革(D)が着実に進んでいる(敬称略)